

## 予 算 総 体 説 明

昨年11月の市長選挙におきまして、市民の皆様の御信任を頂き、市政を担当させていただくことになりました。このたび、最初の新年度予算となります平成30年度予算を編成いたしました。

市役所の最大の役割は、市民の安心で幸せな暮らしを支え守ることです。そのためには、市民の生活に密着した様々な仕事について、当たり前のことを丁寧にきちんと行うことが最も大事なことだと考えております。予算編成に当たってもこのことを第一に考えました。

一方で、現在我が国では、一部の大都市を除くほとんどの地域において、若者や女性の都会への流出に苦しんでおり、呉市もその例外ではありません。私は、都会に出て行った子や孫を、再び呉市に呼び戻すには、呉市が都会と変わらない、若者や女性がワクワク、イキイキできるまちになることが一番の対策であると考えております。そうした夢の実現に向けて、できることを着実に一步一步進めてまいりたいと考えています。

議員の皆様方におかれましては、より一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、現下の日本経済の情勢をみますと、景気はこのところ緩やかに回復しており、先行きにつきましても、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復が続くことが期待されています。

一方で、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

そうした中、国は平成29年度一般会計補正予算において、待機児童解消に向けた保育の受け皿整備を始めとする「人づくり革命」や「生産性革命」の関連経費、災害復旧費、農業対策費等として、2.7兆円の歳出を追加しております。

また、国の平成30年度一般会計予算の規模は、「経済・財政再生計画」の集中改革期間の最終年度の「経済再生と財政健全化を両立する予算」として、これまでの歳出改革の取組を強化しつつ、「人づくり革命」や「生産性革命」を始めとした施策の推進等により、前年度を上回る過去最大の97.7兆円で、前年度に比べ0.3兆円、率にして0.3パーセントの増

となっています。

次に、地方財政についてでございます。

地方財政計画の規模は、社会保障関係費やまち・ひと・しごと創生事業費等の歳出を適切に計上すること等により、前年度に比べ0.3兆円増の86.9兆円、率にして0.3パーセントの増となっています。

次に、地方税と地方交付税の動向ですが、地方税は、前年度に比べ0.4兆円増の39.4兆円で、率にして0.9パーセントの増となっています。

また、地方交付税は、地方税収の伸びや歳出特別枠の廃止等により、前年度に比べ0.3兆円減の16.0兆円、臨時財政対策債は、前年度に比べ0.1兆円減の4.0兆円で、その結果、地方交付税と臨時財政対策債を合わせた実質的な地方交付税の総額は、前年度に比べ0.4兆円減の20.0兆円、率にして1.9パーセントの減となっています。

以上、平成30年度予算編成に当たっての「国の動向」と「地方財政を取り巻く環境」について、概略を御説明いたしました。こうした状況を踏まえて編成しましたのが、平成30年度予算でございます。

まず、各会計の予算規模でございますが、

一般会計	98,830,000千円
特別会計	53,329,012千円
企業会計	24,767,564千円
総計	176,926,576千円

となり、平成29年度の当初予算と比較しますと、一般会計は0.8パーセントの増、特別会計は、17.1パーセントの減、企業会計は、6.4パーセントの減となっています。

この主な要因でございます。

一般会計につきましては、生活保護費（▲6.7億円）や中小企業振興資金貸付金（▲5.0億円）といった減要因もございしますが、消防局等新庁舎整備（14.3億円）、呉市営プール等整備（10.5億円）の増等により、29年度を上回る予算規模となっています。

特別会計につきましては、全体で17.1パーセントもの大幅な減となっていますが、これは、国民健康保険事業（事業勘定）について、県単位

化に移行することに伴い、共同事業拠出金が市の予算を経由しなくなること（▲66.1億円）や、臨海土地造成事業における市債の償還（▲22.3億円）の減などによるものでございます。

また、企業会計につきましては、全体で6.4パーセントの減となっておりますが、これは水道事業、工業用水道事業及び下水道事業において建設改良費が減少（▲21.0億円）したことなどによるものでございます。

次に、予算編成の基本的方針として、平成30年度一般会計予算について、その概略を申し上げます。

1点目は、「行財政改革」の一層の推進でございます。

くれワンダーランド構想や長期総合計画に掲げる将来都市像の実現を下支えする持続可能な財政基盤を確立するため、健全な財政運営の確保に軸足を置き、行財政改革への取組をなお一層推進してまいります。

歳入につきましては、利用の可能性が低い市有地について積極的に売却、貸付けを行い財源を確保してまいります。

また、歳出につきましては、呉市職員体制再構築計画などによる職員数の適正化に取り組み、職員人件費を縮減することとしています。

なお、職員数につきましては、平成29年度当初の1,683名から51名削減し、平成30年度当初では1,632名となる予定でございます。

また、既存事業をゼロベースで見直し、役割を終えた事業の徹底的なスクラップに取り組むとともに、呉市公共施設等総合管理計画に基づく公共施設の統廃合や管理運営方法の見直し等により、内部管理経費の削減等を実施してまいります。

さらに、投資的事業については、緊急度・必要度を十分に検討し、計画的な執行に努めてまいります。

また、建設地方債の計画的活用により市債残高を抑制するとともに、引き続き、過疎対策事業債や合併特例事業債などの交付税措置のある有利な起債の活用を図ったところでございます。

2点目は、くれワンダーランド構想の実現に向けた取組でございます。

呉のまちに元気とにぎわいを取り戻し、若者や女性が戻ってきたい、また観光客が訪れてみたいと思えるようなワクワクと楽しい、新たな呉市に進化していく。そのため、「誰もが多様な夢に向かってチャレンジできる

まち」,「創意工夫で時代を先取りする産業を創造できるまち」,「日本中,世界中から多くの人が集う交流都市・観光都市」を目指してまいります。

新年度予算では,くれワンダーランド構想の実現に向けて,有識者による検討委員会を設置し,専門家等の意見をお聴きしながら,施策の方向性を検討してまいります。あわせて,呉駅周辺の整備などについて検討する分科会を設置してまいります。

私が選挙中に掲げたくれワンダーランド構想では,三つのビジョンと五つの宣言をお示ししました。

ビジョン1は,自然と調和した未来志向の「イキイキした呉」を構築

ビジョン2は,女性と若者のチャレンジ支援と時代を先取る産業の創造

ビジョン3は,世界に自慢できる交流都市への発展 でございます。

これらのビジョンは,いわば未来へ向かっての夢と目標をお示したものです。

これに対して,五つの宣言は市長に就任したら,まず取り組んでいくと申し上げたものです。

宣言1は,子育て世代に住みやすいまちの実現

宣言2は,中小企業・経済を取り戻し,未来につながる事業の創造

宣言3は,「医療・介護サービスの充実・発展」と「健康でイキイキとした生活の実現」

宣言4は,公平で,隠しごとのない,クリーンな市役所行政を推進

宣言5は,市長退職金市民評価制度

以上が五つの宣言です。

さて,くれワンダーランド構想に関わる主な事業を御説明します。一つの「時代を先取る産業を創造」として,中小企業の自助努力や創意工夫を市全体として支援するため中小企業振興基本条例の制定に取り組みます。これは,先ほど申し上げた宣言2「中小企業・経済を取り戻し,未来につながる事業の創造」を実行するものです。また,目指せ!健康寿命日本一プロジェクトとして,予防医療を推進し,骨粗しょう症重症化予防,口腔<sup>くわ</sup>ケアの推進等,市民の健康づくりの推進につながる健診の受診促進に積極的に取り組み,健康寿命日本一を目指してまいります。これは,宣言3「医療・介護サービスの充実・発展」と「健康でイキイキとした生活の実現」を実行するものです。

二つ目の「世界に誇れる交流都市への発展」として、青山クラブの耐震診断等を実施し、保存・活用に向けた検討を進めるとともに、シティプロモーションの推進として、新たなプロモーションビデオの活用による更なる呉市の認知度向上や、観光誘客の促進に向けた取組を展開してまいります。

三つ目の「女性と若者のチャレンジを支援」として、新生児聴覚検査や産婦健診に対する助成など、子育て世代が住みやすいまちづくりに向けて、妊娠期から子育て期にわたる包括的な支援に取り組みます。これは、宣言1「子育て世代に住みやすいまちの実現」を実行するものです。女性や若者を含めた全ての市民のチャレンジを支援する新たな取組として、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、市内で起業する方を応援する起業家支援プロジェクトを実施してまいります。これは、宣言2「中小企業・経済を取り戻し、未来につながる事業の創造」を実行するものです。

また、中学校のモデル校4校にタブレット端末を導入し、ICTを活用した教育を推進してまいります。

四つ目の「ワクワク島ライフを満喫」として、安芸灘エリアの活性化に向けて、広島県など関係者と協議の場を設け、安芸灘大橋の早期無料化に向けた取組や地域の魅力づくりなどについて検討を進めてまいります。

最後に、「市長退職金市民評価制度」につきましては、制度の在り方等についての検討に着手してまいります。これは、宣言5「市長退職金市民評価制度」を実行するものです。

なお、宣言4「公平で、隠しごとのない、クリーンな市役所行政を推進」については、折に触れ職員に指示するとともに、様々な会合の挨拶で私の市長としての覚悟として申し上げております。

次に、3点目の、長期総合計画に掲げる将来都市像の実現に向けた取組という観点から整理して御説明いたします。個別の事業としては、先ほどのくれワンダーランド構想に関わる施策と重複しているものがございます。

三つの「重点戦略」に基づく事業について御説明いたします。

まず、重点戦略の一つ目の「人づくり」でございます。

「未来を担う人材の育成」ですが、2020年東京オリンピックの事前キャンプとして、メキシコのバレーボールチームが呉市で交流合宿を行

う予定です。この機会に、選手団と市民や子どもたちとの交流が行われるよう、受入れ市として、支援をまいります。

次に、タブレット端末を学校のパソコン教室に導入まいります。平成30年度はモデル校として、中学校4校へ導入まいります。

さらに、妊娠期から子育て期にわたる包括支援として、4月から新生児の聴覚検査に対する助成を行うとともに、10月からは、産後2週間及び1か月の産婦健診への助成をはじめます。

また、普通教室への空調設備の設置については、中学校に続いて全小学校で整備まいります。

「市民の健康づくりの推進」といたしましては、「目指せ！健康寿命日本一プロジェクト」として、先ほど御説明申し上げましたとおり、健康寿命の更なる延伸に努めてまいります。

「地域協働によるまちづくりの推進」といたしましては、「緩やかなお節介事業」として、地域住民による見守り活動を支援します。また、新たに、安浦地区に地元産品の販路拡大等を目的とした地域おこし協力隊を受け入れてまいります。

続きまして、重点戦略二つ目の「地域づくり」でございます。

「安全・安心な生活環境の確保」といたしましては、災害時に発生した災害廃棄物を迅速に処理するため、災害廃棄物処理計画を策定まいります。

また、歩行者の安全性の向上や地域の活性化に資する道路整備事業につきましては、広地区において新たに、広駅前大新開線の整備に着手するほか、昭和地区では、焼山矢野線バイパス整備事業を再開させるなど、着実に推進まいります。なお、平成30年度末には横路4丁目白石線の供用を開始する予定となっております。

次に、住宅・建築物の耐震化促進については、不特定多数の人が利用する大規模建築物や、広域緊急輸送道路等沿道建築物の耐震改修に対する支援制度を導入し、地震に強いまちづくりを進めてまいります。

さらに、中央公園については、災害発生時の広域避難場所として、また、災害対応時の災害支援活動の拠点として活用できるよう再整備まいります。

「産業競争力の更なる強化」といたしましては、内陸部での新たな産業団地造成の可能性について適地調査を行います。また、くれ産業振興センターのコーディネーターを増員します。

次に、高齢化が進む農業従事者の負担軽減策として、有害鳥獣の捕獲柵等へのわな監視通報システムの設置や、ドローンを活用した柑橘<sup>かんきつ</sup>への農薬散布についての実証実験を行います。

また、観光客誘致に向けた観光資源のブラッシュアップについては、アニメ映画「この世界の片隅に」ゆかりの場所を新たな観光スポットとして整備するとともに、大和ミュージアムに多言語対応AR（拡張現実）展示を導入いたします。

さらに、インバウンドの推進に向け、情報発信や誘致活動を展開いたします。

また、日本遺産を活用した呉の魅力発信として、引き続き、旧軍港市日本遺産活用推進協議会を通じて、また呉市が北前船寄港地<sup>きたまえぶね</sup>の日本遺産構成自治体に追加認定されることを踏まえ、PR活動等を進めてまいります。

「産業を支える人材の確保・育成」といたしましては、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、市内で起業しようとする方を支援する新たな制度を導入してまいります。

また、新規漁業就業者に対しては、呉市が実施するシルバー漁師研修について、研修内容・期間の充実や受講後の就業者に対する奨励金の支給開始などを行ってまいります。また、障害者の雇用促進に向けた企業等実態調査を行うなど、企業に対する就労支援体制の充実を図ってまいります。

次に、重点戦略三つ目の「都市づくり」でございます。

「高次都市機能の強化・充実」といたしましては、多くの人の思いが詰まり歴史的・文化的にも価値のある青山クラブについて、呉市中心部の回遊性の向上や幸町地区のにぎわい拠点施設となるよう、耐震診断等の調査を行い、保存・活用に向けた検討を進めてまいります。

次に、拠点スポーツ施設として整備を進めております呉市営プールと呉市体育館については、供用開始に向けて引き続き整備を進めるとともに、呉市総合スポーツセンターは、陸上競技場について3種公認の継続取得に必要な施設整備を実施してまいります。

また、コンビニ交付サービスについては、平成29年1月から住民票等

の交付サービスを開始しておりますが、平成31年1月からは交付対象を戸籍の証明書や附票等にまで拡大します。

さらに、消防・防災の拠点施設である消防局・西消防署新庁舎については、平成32年度の供用開始に向けて、建設工事に着手してまいります。

「魅力ある住生活環境の確保」といたしましては、移住希望者に呉市を移住先に選んでもらうため、定住サポートセンターの活動として、東京での呉市単独の移住セミナー開催や人材紹介会社と連携したPR活動を展開するとともに、呉市に宿泊した移住希望者に対する宿泊費助成を創設します。

また、シティプロモーションの推進については、平成28年度、平成29年度に引き続き、呉について積極的に情報発信をしてまいります。

最後に、4点目の、「広島中央地域連携中枢都市圏としての取組」でございます。

連携中枢都市圏制度は、地方圏における中核都市が近隣市町と連携・協力して、圏域全体の経済成長のけん引や生活関連機能サービスの向上に取り組むことで、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持しようとするものでございます。

呉市は、圏域全体の経済成長と住民サービスの向上を図るため、広島中央地域4市4町で連携中枢都市圏を形成し、連携事業を実施してまいります。

平成30年度は、くれ産業振興センターの活動エリアの拡大や観光キャラバン隊の合同実施、災害時の相互応援協定、文化・観光施設の相互利用などを実施してまいります。

以上、平成30年度一般会計予算の概略について御説明申し上げました。なお、現在策定中の第3次呉市行政改革実施計画に基づき、職員の意識改革と能力開発等に取り組むことにより、多様化する行政ニーズへの的確な対応や、高度化・複雑化する行政課題の解決等にも取り組んでまいります。

次に、企業会計について、概略を申し上げます。

病院事業につきましては、公立下蒲刈病院のほか附属診療所も含め、安芸灘島しょ部の公的医療機関として、また地域内唯一の救急告示病院とし



て、地域に根ざした保健・医療の中核施設の役割を担い、安全・安心な医療を提供してまいります。

水道事業につきましては、老朽化した配水管路の更新など、水道施設の計画的な改築更新を進めるとともに、宮原浄水場管理棟の整備など、施設の耐震化と危機管理体制の強化を図ります。

工業用水道事業につきましては、水道事業との合併施工である宮原浄水場管理棟整備を引き続き実施してまいります。

下水道事業につきましては、隠渡汚水幹線など、未普及地区における整備を進めるとともに、引き続き広東地区の浸水対策を進めてまいります。

以上、呉市の平成30年度予算の概要につきまして御説明いたしました。が、合併算定替え等による地方交付税の減少や、高齢化の一層の進展等に伴う社会保障関係費の増加など、本市の財政状況は依然として厳しい状況が続いています。

一方で平成30年度は、くれワンダーランド構想の三つのビジョンの実現に向けて検討に着手する年でございます。また、併せて五つの宣言を具体化していく年でもあります。

議会の皆様方並びに、市民の皆様方に暖かい御理解と御協力をお願い申し上げます。平成30年度予算の総体説明といたします。